

平成23年度相模川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



2011年10月15日見学会資料

本調査は、神奈川県厚木土木事務所による相模川河川改修事業・さがみグリーンライン事業（自転車道整備事業）に伴う事前の記録保存調査として、平成18年度から断続的に実施しています。河原口坊中遺跡は、神奈川県中央部を流れる相模川の東岸にあり、沖積微高地上に立地しています。この遺跡は海老名市No.52遺跡として神奈川県埋蔵文化財包蔵地台帳に登録されており、弥生時代から近世に至る複合遺跡として周知されています。これまでに相模川河川改修事業関連の発掘調査の他に、さがみ縦貫道路建設事業に伴う発掘調査が平成18年度から平成23年度にかけて行われています。

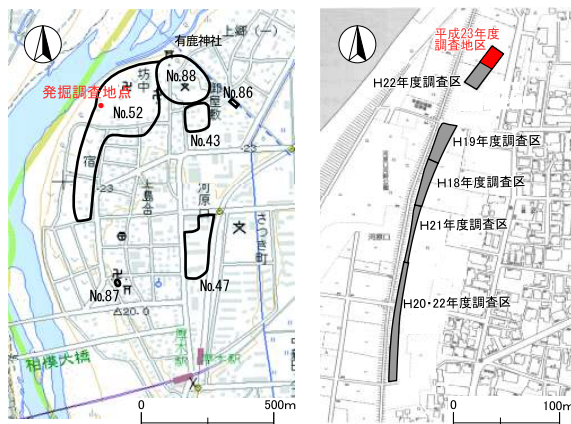
河原口坊中遺跡を特徴付けるものの一つとして、多数の木製品を出土した旧河道の発見があります。

旧河道の深さは、5mにも及ぶ深いものです。

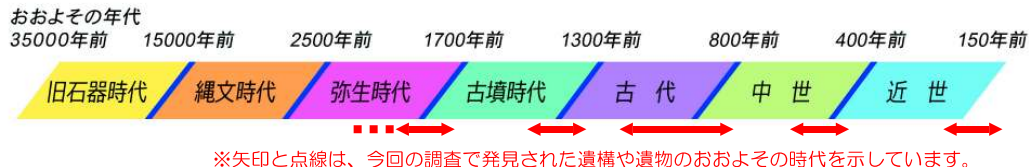
当地区は今年の3月から発掘調査を行い、現在は第7面目の調査(全体では8面の調査を予定)が進行中です。これまでに、竪穴住居46軒、溝状遺構4条、掘立柱建物4軒、土坑135基、ピット(小穴)等が多数重複して、発見されています(裏面「遺構深度概略図・第3面遺構配置図」参照)。

その内容は、近世面(第1面)では耕作に利用されたと推測される畝状遺構、中世では溝状遺構や掘立柱建物があり、古代面(第4・5面が中心)では遺構も多く、竪穴住居が25軒、土坑は74基発見されました。

現在は弥生時代の竪穴住居等の調査を中心に作業を進めています。



周辺の遺跡
 No.43 御屋敷遺跡
 No.47 四大縄遺跡
 No.52 河原口坊中遺跡
 No.86 上郷中世墓群
 No.87 安養院
 No.88 有鹿遺跡



※矢印と点線は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時代を示しています。



かわらけ出土状況(中世)
第2面検出



竪穴住居遺物出土状況(古代)
第3面検出



土錘出土状況(古代~中世)
第4面検出



竪穴住居完掘状況(古代)
第4面検出



竈検出状況(古代)
第4面検出

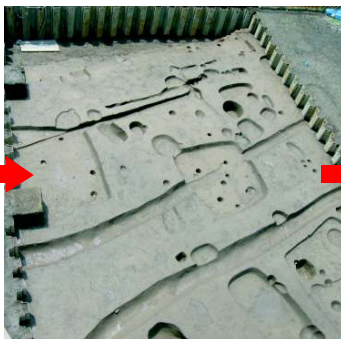


鉸具出土状況(古墳時代~古代)
第4面検出

出土遺物の主なものは、古代では甕や壺といった土器。また、遺跡が相模川に近いこともあり、漁舟の網に使用した土錘も多く、45個も出土した竪穴住居跡や、11個がまとまって出土した土坑もあります。土器のほかには、刀子や鉸具といった鉄製品も出土しました。中世では、中国製の青磁の破片、酒宴などで使われたとみなされるかわらけが出土しています。



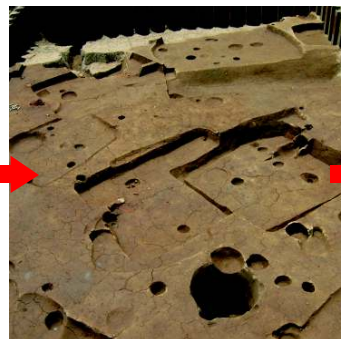
第1面全景
(近世 3月14日北東から撮影)



第2面全景
(中世 4月19日北から撮影)



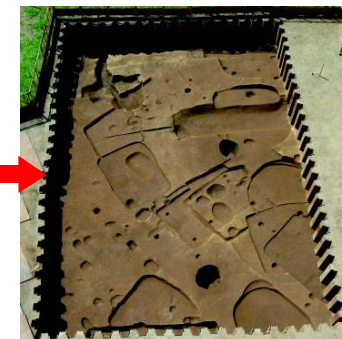
第3面全景
(中世~古代 6月7日北から撮影)



第4面全景
(古代 7月12日北から撮影)



第5面全景
(古代~古墳時代 8月9日北から撮影)



第6面全景
(古墳時代~弥生時代 9月13日北から撮影)

調査過程における調査面の推移